



よしだつうしん

吉田通信

第23号
【2016年8月】

〒950-1475 新潟県新潟市南区戸頭1347-1 TEL:025-372-1138 FAX:025-372-1155

■■この吉田通信は私とご縁のあった方、ご縁をいただきたい方に差し上げている月一人通信です■■

◆お墓の持つ力◆

こんにちは！お世話になります。吉運堂の吉田竹史です。吉田通信第23号をお送りいたします。よろしく願いいたします。

さて、4年に1度のオリンピックも後半になってきました。今回も多くの日本人選手の活躍があり、私もたくさんの感動をいただいています。体操や競泳の活躍も素晴らしいですが、特に印象に残っているのが、前回のロンドン大会で金メダルを一つも取れずメダル4つで惨敗した男子柔道の活躍です。金メダル2つ、銀メダル1つ、銅メダル4つとすべての階級でメダルを獲得するという日本柔道初の快挙となりました。柔道日本の復活を託された選手の皆さんのプレッシャーは想像もつきませんが、選手はもちろんコーチの方々を含めた関係者全員のこの4年間の精進のたまものであると思います。

ロンドン大会の惨敗から立て直しを任されたのが日本代表監督の井上康生さんです。その井上さんを紹介する記事の中で亡きお母様のお墓参りの話が書かれていたのでご紹介します。

井上康生さんは小中高大のすべてで日本一となり、シドニー五輪では金メダルを獲得しました。すべてが順風な歩みのように見えますが、五輪の前年、お母様を突然のくも膜下出血で亡くされました。そのお母さんが康生さんに宛てた最後の手紙の文末に「すべて初心に帰って頑張ってください」という言葉があったそうです。記事の中で康生さんは「墓参りに行けば、母が教えてくれた『初心』を思い出す。監督になってなおさら、その言葉の重みがわかってきた」と述べています。これまで多くの試練と苦悩を乗り越えてきた背景には、お墓の前で亡きお母様と対峙することで奮い立たせてきた強い精神力もあったことと思います。



また、多くのメダリストたちは「支えてくれた家族やコーチのおかげです」と感謝の言葉を述べています。「感謝の心は人間を成長させていく原動力だと思う」と言ったのは野村克也さんです。感謝の心を思い起こし、強靱な精神力へと導いてくれる。お墓参りで亡きお母様やご先祖様に感謝することもお墓の持つ力だと思います。

◆発行者コラム◆

今回もまた最後までお読みいただきまして、どうもありがとうございます！さて、この暑い夏の個人的な目標のひとつは、夏バテしないように“7時間以上しっかり寝ること”です。朝は6時ころには起きますので、できれば10時半に寝たいと思っていますが、イチローやオリンピックの日本人の活躍、高校野球のハイライトを見ているとあっという間に11時を回ってしまいます…(笑)。この夏は暑さとTVの誘惑に負けず、なんとか早く寝たいと思います！吉田竹史

■■吉田通信を今後ご希望されない方は、大変お手数ですが090-3339-0424までご連絡をお願いいたします。■■

【発行者プロフィール】

名前: 吉田 竹史(よしだ たけし)
生年月日: 昭和40年8月21日(O型)
出身地: 新潟県白根市(現・新潟市南区)
経歴: 都内の学校を卒業後、証券会社(水戸&ニューヨーク)の4年間の勤務を経て吉運堂へ。

趣味: 上手くないゴルフ、強くない将棋
(NHKの将棋対局を見ることは好きです)
家族構成: 妻、娘、息子



吉田 竹史